

良識ある保守主義・情報公開

# 吉田つとむ

町田市議会議員 (4期連続トップ当選)

<編集発行>

〒194-0011 町田市  
成瀬が丘 1-14-12  
サンホワイト E103-13  
自宅 042-795-7361(fax 兼用)  
市議会議員 吉田つとむ  
yoshidaben@gmail.com



## 四条畷市で電子投票選挙が実施

### 8年ぶりの電子投票選挙が四条畷市で実施

この記事は、2024年12月22日に大阪府四条畷市の市長・市議補選で行われたことに伴い、現地取材をして作成したものです。この記事に先立ち、大阪府四条畷市の事前取材、議会の一般質問(電子投票の取り組みについて)を行いました。前号(2024年12月後半号 vol.587)で報告した内容です。



日本における電子投票選挙は8年ぶり、大阪府四条畷市の市長、議会、及び選挙管理委員会の英断とも言えるものでしょう。その理由は、可児市議選挙の可児ショックと称される電子投票結果の無効判決、紙の投票用紙を使った再選挙が行われ、当落者が入れ替わる大事件が起きたことによるものです。ただし、これらの電子投票選挙の10自治体の全部の電子投票選挙を見てきた者にとっては、原因と問題点は明らかです。他の電子投票選挙(1台の投票機に1つの記録媒体)とは異なり、可児市は実用試験を経ないで複数の電子投票機を1つのサーバーに保存する方法を採用して、サーバーがオーバーヒートし、投票機能が停止したものです。単体機(スタンドアローン型)を使えば問題は起きず、かつ、他の選挙のように予備機を準備しておれば、問題は発生しなかったものです。さらに、可児市は残りの時間にはサーバーを扇風機などで冷却しながら選挙の投票を続けたものでした。裁判で争われたのは、「停止した1時間ほどの間に帰った人の投票が出来なかった」ことで選挙判定の有効性が争われたのですが、選挙の当落者の票数の以上の人投票所から帰ったことで取り返しがつかない問題が生じたものでした。

大阪府四条畷市の市長・市議補選では、単体機ごとに記録(USBメモリー)する方式が採用されているとのこと、可児ショックは起きないように、当初から計画されていたと言えましょう。

## 電子投票選挙の投票について

今回の電子投票選挙では、電子投票選挙初参入の「京セラ」が提供したシステムとタブレット機が採用され、投票が行われました。前回の四条畷市の取材時(11月30日)には、まだデモ機もメーカーから到着しておらず、タブレットを使った選挙というのは、スマホと同じように、あるいはタブレットのネット検索の中での書き込みのように、インターネット投票選挙と理解されている様相が見られました。\*これは、町田市内の取材でも電子投票選挙=インターネット選挙と考えられており、投票所の投票時に一定の混乱が起きるのではないかと若干の心配をしていました。

つまり、一般の常識では、世代を超えてインターネットの利用が普通、あるいは必須アイテムになっており、むしろ、インターネットを利用しない生活の方がより不便なものと理解されていると言えるでしょう。ただし、ネットにおいては他人の成り済まし、情報の盗み見の問題がより深刻に存在し、選挙投票の匿名性、不正投票の防止が重要な課題だと言えるでしょう。今回の四条畷市のように、電子投票機の投票データを、インターネットを介さず、本体に接続した議事媒体(USBメモリー)に直接記録し、この磁気媒体を専用のケースに封して移送し、開票所に持ち込み、リーダーで読み込み、パソコンに取り込めば、データの漏洩や書き換えという懸念は一掃されると思っています。四条畷市の電子投票選挙でも、ほぼ同様な手順であり、情報漏洩の問題が解消されたと考えるものです。



最も長く電子投票を続けた六戸町・庁舎内で模擬投票体験しました

◎水耕栽培メロン 世界一決定戦を開催しよう!

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

●吉田つとむは令和4年2月実施の市議会議員選挙で、4期連続のトップ当選を果たしています

若い世代の育成に全力をささげる  
町田市議会議員(4期連続トップ当選)

# 吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは  
左記を読込  
して送信



好評インターンシップは、第  
55期生を募集予定

## 電子投票選挙の開票について

大阪府四条畷市の市長・市議補選の開票は、市立市民総合体育館で実施されました。紙の投票用紙の場合のように、多数のテーブルを並べたり、そこで投票用紙を拾い上げる作業を要しないことで、もっと狭いスペースで開票作業が可能でした。ただし、選挙の開票状況を見守る選挙関係者、あるいは選挙に関心が深い人たちが集まる駐車場スペースの確保という問題は、この体育館を除いて四条畷市内では難しいのかも知れないと推測したものでしたが、体育館の多色的ホールが使用されました。また、今回の電子投票選挙では、8年ぶりということがあってか、作業の在り方が慎重すぎるのではないかと思える時間を要しました。



多目的ホールの前方部分が開票作業スペースで、後方が記者席と一般関連者席。TVカメラは全部2F。

電子投票選挙では、投票所(あるいは開票所)で電子投票機の記録媒体=USBメモリーを取り出し、集計用のパソコンに順に読み込んでいけばよい(電子投票選挙の一般的な方法)手順でした。一番大きな違いは開票作業に多くの人出が不要になったと言うことでしょう。さらに、紙の選挙では記入された氏名の判別が一番大きな争点になるものですが、1~10票差を争う選挙では、候補者の記名の読み取り次第で当選者の当落が全く異なる人物に替わってしまうことが生じる可能性があります。電子投票選挙では、投票者自身がどの候補を選ぶかという選択が、画面上で自分が確認し、データ記録化が行えるものです。

## 電子投票選挙を実施した四条畷市の快挙

大阪府四条畷市の市長・市議補欠選挙は2024年12月15日~21日に実施され、22日が投開票となりました。市長・市議選にはそれぞれ以下の2名が名乗りを上げ、真摯な戦いを演じました。その方々に敬意を表したいと思います。

四条畷市長選候補者 ◎が当選者

◎ぜにや 翔 vs 渡辺 ゆたか

四条畷市議補選候補者 ◎が当選者

ささべ 季湖 vs ◎大原 よしたけ

選挙の投開票というのは、複数の候補者が競って初めて成り立つもので、この選挙でいずれか一方の方のみしか立候補しておられなければ、無投票当選となり、今回の電子投票選挙自体が未実施となっていたわけです。

この四条畷市の電子投票選挙の実施を推進したのは、現職四条畷市長の東修平氏(2期で引退表明!)とそれを支持した議会の皆さん、選管の皆さん、さらには幅広い市民の皆さんの理解で成立したものです。これまで電子投票実施の10自治体の初選挙をすべて見てきた電子投票選挙マニアとして、四条畷市民の皆様に感謝の思いを表明いたします。



四条畷市役所東別館内会議室の電子当選選挙の投票所入り口:投票者の合間をぬって撮影

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2024年9月末までに110名が参加しました。

◎インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。

◎次回のインターンシップは、2025年春季募集で2024年11月より広報開始しています。